

令和元年度第1回高松市高齢者保健福祉計画推進懇談会会議録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和元年度第1回高松市高齢者保健福祉計画推進懇談会
開 催 日 時	令和元年10月31日（木） 午後2時30分～午後4時まで
開 催 場 所	高松市危機管理センター 5階 502会議室
議 題	(1) 第7期高松市高齢者保健福祉計画の進捗状況について (2) 第8期高松市高齢者保健福祉計画の策定について (3) 第8期高松市高齢者保健福祉計画策定に係る基礎調査の実施について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	山下会長、虫本職務代理、石川委員、上田委員、梅村委員、兼間委員、鎌野委員、喜田委員、木村委員、田中委員、徳増委員、中村委員、萩池委員、三村委員、
欠 席 委 員	藤目委員
傍 聴 者	2人、報道0社
担 当 課 及 び 連 絡 先	長寿福祉課（839-2346）

審議経過及び審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。  
次のとおり、会議を開催した。

1 開会

健康福祉局長挨拶

会議を公開とすることを確認

2 議題

(1) 第7期高松市高齢者保健福祉計画の進捗状況について（資料1）

(2) 第8期高松市高齢者保健福祉計画の策定について（資料2）

(3) 第8期高松市高齢者保健福祉計画策定に係る基礎調査の実施について（資料3）

## 意見及び質疑応答

### A委員

#### 〈議題(1)について〉

計画の目標値に比べ、達成の数字が低い施策については、長寿福祉課だけでなく、関係各課と連携し、対症療法ではなく時間をかけて取り組んでいくことが重要である。WHO（世界保健機関）の示す健康の4つの指標は、「所得・雇用・家族・地域」であり、この4つに関する施策を関係各課で連携して行っていくべきである。

また、より高齢者施策を進めていくために、市民への情報発信や啓発は、分かりやすく言葉を噛み砕いて伝えていくべきだ。

### 事務局

#### 〈議題(1)について〉

各課連携については、計画を作る段階では関係各課連携して目標値を出している。一方で、横のつながりの各課連携というのは、重要であると感じている。引き続き、横の連携を意識して、取り組んでいきたい。

### A委員

#### 〈議題(1)について〉

例えば、公共交通以外に、地域に合ったマネジメントを行い、関係各課と連携して、買い物支援等に取り組んでいくべきだ。

また、まちづくりが進まなければ、要援護者台帳の整備等が進んだとしても、今回のような予測できない大規模な災害には対応できない。そういった意味でも、コミュニティ推進課等との連携が必要である。

### B委員

#### 〈議題(1)について〉

重点課題③の生活環境の充実における、災害時の援護体制の充実について、避難行動要支援者名簿の登録というのは、実際には、どのような形で地域に情報提供されているのか。今まで地域の私たちのところに、そういった名簿が届いているということを耳にしたことはない。

### 事務局

#### 〈議題(1)について〉

名簿については、今年、新規に一人住まいになった、高齢者や障がい者の方について、約4,000世帯について登録の申請書を発送している。市内全部で12,000人くらいの方に登録いただいているが、人数が伸び悩んでいるため、これからどうするかという点が大きな課題である。また、この名簿については、情報がどんどん古くなっているため、新しいものに更新していただくように地域にお願いしているところである。半分以上のコミュニティ協議会において、登録している方の情報や登録している支援者の情報を書き換えていただいている。

コミュニティ協議会や、地区社協、コミュニティ連合会自治会に（名簿による）情報提供をおこなっている。（名簿の）活用の仕方について

は、各地区での取り扱いに差異はあるが、有効活用していただくようお願い申しあげているところである。

**C委員**

〈議題(1)について〉

女性よりも、男性の方が、介護予防の活動への取組が低いと感じている。PDCAをうまく回して、男性の参加率が高い居場所を参考に、男性が参加しやすい介護予防の場を設けていく必要があるのではないか。

地域によれば「おやし塾」という形で、剪定の先生を招き、小学校の校庭の剪定をする等、効果的な取組を工夫して行っているところもある。

行政の縦割りを超えて、効果を出している取組もある。

**事務局**

〈議題(1)について〉

男性の参加率については、地域を見ていく中で、これからの取組を工夫して、上げていくべき数値であると感じている。地域によれば、C委員のおっしゃるように、男性の参加率の高い居場所やコミュニティがいくつかあるようだ。

今回、実施予定の高齢者の暮らしと介護についてのアンケートでは、高齢者になる手前の一般市民の社会参加率がどのような数値になっているかを確認することとしている。高齢者になる手前の市民について、地域とのつながりを数値で確認できるのではと想定している。後ほど詳しく説明する。

**D委員**

〈議題(1)について〉

質問だが、重点課題③の生活環境の充実の高齢者住宅等安心確保事業について、生活援助員の派遣人数とあるのは、どういった取組なのか教えてほしい。

**事務局**

〈議題(1)について〉

生活援助員の派遣というのは、高齢者の生活特性に配慮したシルバーハウジングが市内4団地あり、そこへ常駐している生活援助員のことである。高齢者の相談にのっていただく役割を担っている。本市からの委託事業で、昼間は常駐しており、夜間は警備会社の方に対応していただく形をとっている。

**A委員**

〈議題(1)について〉

介護保険を利用しておらず、介護保険の恩恵を受けていない人85%の市民についても、必要な支援が行きわたるようにすべきだ。

安心して高齢者が徘徊できる街づくりができています、大牟田市のように、地域住民とコミュニティと行政が連携して、システムを構築していくべきだ。

E 委員

<議題(2)(3)について>

高齢者の生活においては、地域差が大きくなっている。

移動手段に困難をきたし、行動範囲が制限され、引きこもりになっている高齢者が増えている地区もある。コミュニティ内の地域の行事の場所に行く場合であっても、難しい高齢者もいる。

アンケートの中で、地域での集いの場に参加しない理由は何かと問う設問において、移動手段のことを含めて聞くべきである。どのような手段で行っているのかという問いを入れてはどうか。

F 委員

<議題(2)(3)について>

認知症については、家族や近隣に認知症の人が実際にいなければ無頓着になるから、アンケートの回答結果を分析していくのが難しいかもしれない。

また、男女差が介護予防活動にも出てきていると思うが、居場所などに来ている元気な人をより元気にする取組が引き続き重要だと思う。

また、フレイル予防の啓発が少しずつ浸透してきている実感があるので、引き続き啓発事業をおこなってほしい。

G 委員

<議題(2)(3)について>

目標値や達成率の設定においては、地域福祉ネットワーク会議の設置地区数などではなく、実際にその地域に要支援1・2の人や、基本チェックリストで事業対象者になった人が何人いて、何人が、介護保険サービスを利用してその恩恵を受けているかなどといった、より詳細な内容がいいのではないかな。

災害時の避難体制については、防災、減災といった観点からは、地域コミュニティの再生や地域住民とのつながりが本当に重要になってくると思うので、そういった内容をなんとか数値化できるような工夫をしてもらえるとありがたい。

2025年問題もあり、後期高齢者がますます増えていく中ではあるが、実情に合った目標値や達成の数値であるべきと考えている。

C 委員

<議題(2)(3)について>

「認知症になったらどうしたらいいかを家族と話し合ったことがあるか」という質問を、認知症予防の講座で尋ねることがある。話し合ったことがある人の方が少なく、認知症に関する差別や偏見が強いと感じている。認知症に関するACP(アドヴァンスド・ケア・プランニング)を問うような質問項目もアンケートに入れてはどうか。

F 委員

<議題(2)(3)について>

地域の高齢者のうち、介護保険を利用したくてもできない市民もいる

と思う。独居の方は、地域の人々から見えていない高齢者もいて、民生委員や地域包括支援センターの力を借りながら支援していく必要がある。孤独死になるようなケースもあるので、元気な人をより元気にしていくことも重要だが、その対極に位置する市民のサポートも一緒になってやっていきたいと思っている。

#### A委員

##### <議題(1)について>

高齢者になって、引きこもりがちになって、うつ病になるのを防ぐには、高齢者の居場所が重要だ。居場所の工夫としては、多世代との交流があげられる。また、高松市は他の地域と比較してみても空き家が多いので、高齢者の居場所に有効活用するなどの工夫をしてはどうか。災害時にも空き家を利用することはできるのではないか。

44地域の中で、(街づくりや助け合いの仕組みづくりが)進んでいるところは進んでいるが、できていない所は取り残されているように思う。行政と地域の責任を明確化した上で、相互に協力していくべきだ。

#### G委員

##### <議題(2)(3)について>

ACPについては、実際に事前に計画していても、土壇場になると計画通りにいかないことが往々にしてあると、現場にいて感じている。

また、アンケートの質問項目の中で「生きがいはありますか」とあるが、行政にこの質問をされても、余計なお世話だと感じてしまう。ケアマネジャーや主治医、ヘルパーとのやり取りの中で確認しながら、介護予防や日常の支援を行っていくことはいいと思う。

#### H委員

##### <議題(2)(3)について>

移動支援、買い物支援については、日常生活圏域ごとのニーズを把握するために、アンケートに含めて聞いてみると良いと思う。町中であっても、移動に困るとい声があるようだ。

また、この度の大雨の災害でも、多くの高齢者が被災されたとの情報もあるので、要援護者の名簿や台帳を整えるのとは別に、災害時の避難等について、高齢者がどのように感じているのかをアンケートの中で聞いてみるといいのではないか。

地域包括ケアシステムの構築を掲げる計画ではあるが、地域共生社会の観点も含めた、質問項目も何らかの形でとりいれられたらいいのではと考えている。

#### I委員

##### <議題(2)(3)について>

生活の中での不安や困りごとや、どんな生活支援があればいいかを聞く質問は、高齢者のニーズをはかるために良い質問だと思う。

また、個人情報の問題もあって難しい点もあるが、認知症高齢者のた

めのメール配信等がもっと市民に広がりを見せて、地域の人たちがアンテナを広げていく意識ができればいいと思う。

また、地域の一般の人が、地域の民生委員との関わり方を持てるようにするなどの取組も必要ではないかと思う。

**B委員**

〈議題(3)について〉

質問の文末がすべて「～か？」となっていて、読んでいて、きつく感じるので気になった。

**事務局**

〈議題(3)について〉

実際の調査票では、すべて「～ですか?」「～ますか?」と記載する予定である。

**J委員**

〈議題(2)(3)について〉

毎日の生活についての質問は、入浴をしたり、食事を作ったり、洗濯をしたり等、日常の行為ができているかを問う質問があってもいいと思う。

3 閉会